

地方競馬益金事業

題 字 理事長 長野 士郎

平成6年2月1日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話 (0867)66-3651

FAX (0867)66-3652

学 園

だ よ り



# 学 園 の 近 況

校 長 雛 川 信 昭

学園関係の皆様、卒業生の皆様には御壮健にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

本校も岡山県立から財団法人へと改組されて三十年余りになろうとしています。この間施設整備は岡山県を始め、構成県さらには地方競馬全国協会の御理解、御協力を得ながら取り組んでいます。昨年御報告申し上げた第二牧場の搾乳施設、本館の整備ですが、

昭和五十二年に新設されたロータリーパーラーも視察者、見学者が絶えなかったが、老朽化による故障も多いので、平成五年度には全国でも数少ない、省力的、衛生的なオートタンDEM型パーラー（四頭二列）を平成五年十二月に完成し、ゆとりある酪農経営にふさわしく、農家や観光客にも展示し好評を得ています。外観は昨年お知らせしたように、蒜山の景観にマッチするよう

配慮したものです。

本館についても平成七年度完成に向けて、施設、外観は昨年お知らせしたものと、計画を進めています。次に、平成六年度の一次試験合格者は三十二名であり、その中で女性は十一名（三十四％）を占めています。二十九期生三十一名も元気で勉学に励んでいます。

また、当校は酪農ヘルパー全国協会が実施する、ヘルパー養成のための研修施設に指定され、平成二年十二月から研修を行っており、これらヘルパーの分布は、現在十六府県、三十二名となっています。そうした中で職員も高度化、多様化する社会情勢に対応すべく、二十一世紀の酪農を目指し、魅力ある学園に向けて専念している次第です。

学生の遷宮を十月五日に、茅部部落を始め、川上村と酪農大学校の協力で行いました。蒜山の文化財（蒜の神と伝）には、沿革として「山中入景中（稲荷の夜灯）と唱えし如く、往事の盛況を伝う」と記してあり、祭神本尊として、倉稲魂神（ウカ・ノミタマノカミ）、猿田彦神（サルタ・ヒコノカミ）、大宮女命（オオミヤメノカミ）とありました。

また、第七期生建立の牛魂碑を、昭和四十二年四月に天皇、皇后をお迎えし、国土緑化の範を示されたアカマツとヒノキの種子をお手まきになった南に移転しました。

さて、本年の農業生産は、気象観測上記録的な、長雨、低温、日照不足、更には台風来襲等により、野菜の価格は高騰し、稲作は戦後の最悪の作柄、畜産においても飼料作物は大きな打撃を受けました。このような異常気象が発生した場合、通常数年間は何らかの影響がある場合が多いと聞いています。皆様の御奮起を期待します。

どうか機会あるごとに御来校いただき、近況をお聞かせいただきますようお願いいたします。



遷宮なったお稲荷さん

## も く じ

○ 巻 頭 言  
校 長 雛 川 信 昭…………… 2

○ 教務課だより…………… 3

○ 卒業生短信…………… 4

○ 学生だより…………… 5

○ 第一牧場だより…………… 6

○ 第二牧場だより…………… 7

○ 卒業生名簿…………… 8



# 教 務 課 だ よ り

酪農後継者、技術者、酪農ヘルパー等の養成を目的として、専門科目や一般教育科目の充実をはかりながら、一方では校外からの体験実習生の受入れを実施し、積極的なPR活動を行いました。

○卒業証書授与式  
平成五年三月二十五日、第二十七期生の卒業証書授与式が挙行され、希望に燃えた若人十八名が本校を巣立って行きました。

○第二十九期生入学式  
平成五年四月五日、新たな時代の酪農を担う若者三十二名(別表)が入学しました。

○県内若者とのふれあい  
「燃えろ岡山ふるさとづくり、牛とのふれあいコース」に参加した体験学習生二十七名(内男性七名)を五日間受け入れ、本校の学生と共に搾乳実習等を実施し、好評を得ました。

○酪農ヘルパー研修生の受入れ  
(社)酪農ヘルパー全国協会の研修施設指定を受け、過去最高の二十五名の研修生を送りだし、ヘルパー要

員の養成に貢献しています。

○削蹄師講習会  
(社)日本装蹄師会主催の牛の装蹄講習会を実施し、一般受講者と共に二十八期生二十六名が受講しました。

○家畜人工受精及び受精卵移植講習会  
平成五年一月から家畜人工受精が、又二月から受精卵移植講習会が開催された。

本校からも第二十七期生が人工受精講習会を十八名受講し十七名が、受精卵移植講習会を十六名が受講し全員が合格しました。

また、第二十八期生も平成五年十二月から同講習会を受講中です。

○特別講義の実施  
学生の一般教養等知識の高揚をはかるため、各分野で活躍されている方々を招いて、様々な分野の講義を実施し、カリキュラムの充実に努めました。

○リクレーション等の開催  
バレーボール、ドッチボール、スキー等の競技の開催。

蒜山地域のデイリー・ヤングラーとの親睦、女子学生の華道教室等を実施し、学生の余暇利用の充実をはか

りました。

また、華道は昨年に引き続き地域文化祭への出品を行い、称賛を受けています。

○供卵ジャージー牛の輸入について  
ジャージー牛の泌乳能力向上をはかるため、アメリカから一頭導入されました。

今後供卵牛としての活躍が期待されています。

○その他  
報道機関の御協力によりテレビ、新聞等を通じて、学生の生活状況を載せていただく等、本校のPR活動を積極的に推進しました。

来年度も沢山の入学希望者があり男子寮、女子寮ともいっぱいになる予定で、新たに三部屋増室を予定しています。



## 職 員 紹 介

本年度から業務の強化を図るため経営部門を教育部から分離され、名越前場長が経営部長として牧場部門を持つことになりました。

校 長	雛川 信昭
次 長	松田 忠博
(総務部)	
部 長	田中 秀樹
主 事	森本 章敬
〃	津田 清子
(教育部)	
部 長	伊藤 述史
教務課長	河原 宏一
運転技術員	池田 富幸
調理 〃	道祖 夕力
臨時(常勤)	西田 良子
(経営部)	
部 長	名越 志郎
第一牧場長	草薙 耕造
技 師	出石 俊浩
助 手	樋口 照夫
第二牧場長	山田 徹夫
技 師	藤原 努
技 師	安原 則男
助 手	磯田 博
〃	有富 勝仁
臨時(常勤)	三牧 孝徳

# 卒業生 短信

## 酪農ヘルパーの忙しい毎日

第二十七期生 片山 拓志

蒜山生まれで蒜山育ちの私が、学校を卒業したのは平成五年三月でした。

卒業後間もなく酪大で酪農ヘルパー全国協会の認定書を取得し、以来ホクラクのヘルパーとして、蒜山地区のヘルパー組合三十九戸搾乳牛千六百頭の業務を他の二人（内女性一人）と一緒に担当しています。

生まれ故郷でヘルパーをしているわけですが、初めは酪農家の名前も良く判らず、ましてや飼いや方の違う牛の管理を覚えるまでは、失敗の連続でした。

一年経過してやっとゆとりが持てる様になり、農家の信頼も得られ、少しずつ自信を

持って仕事が出来るようになりました。

酪大でも平成三年度から酪農ヘルパー全国協会主催の研究に取り組んでいるように、農家で実習中の後輩たちを指導する機会が多くなってきました。

今年度は十三人の酪大の後輩達（内女性七名）が、一般から来たヘルパーの初心者からベテラン達と一緒に、搾乳や飼料給与に取り組んでいます。さすがに酪大生は仕事に慣れたもので農家から好評を得ています。畜産物の輸入自由化



と消費低迷というダブルパンチにもかかわらず、蒜山酪農業協同組合を中心としたジャージー牛乳、ヨーグルト等乳製品の売れ行きが好調で、農家の台所も差益の還元で少しずつ潤ってきているようです。

今後のわが家の経営もより品質の良い牛乳を、より低コストで生産するように心掛け、立地条件と酪大の諸先輩にめぐまれた蒜山で経営改善に取り組んで行きたいと思っています。

最後に、卒業生のみなさんのご活躍を心からお祈りします。

## 華道部便り

道祖 夕力

平成五年十一月、蒜山文化祭が行われ、お稽古の成果を発表しました。

牛舎の裏から取ってきたクズの藁を丸め花器に早変わり、なかなかの好評でした。

クリスマスにはリースで飾り、広告の紙で籠づくり。

それに、今流行のフラワーアレンジメント、御見舞いのプレゼント、パーティー用テーブル花等すぐ役立つもので、楽しみの部活です。

ちなみにお稽古の花は、校長室、女子寮、研修センター玄関、食堂に飾られて、一足早い春が来たようです。



# 学生だより

## 入学動機と将来

第二十九期生 小笠原 昌幸

## 卒業にあたって

第二十八期生 松崎 亜紀

短い様で、やはり短かかった酪大での生活を振り返ってみると、沢山の思い出が私の脳裏を駆けめぐる。

小学生の頃からここに入学するのが夢だったので、ジャージー牛を前景にポプラ並木を歩いたあの日の事が忘れられないでいる。

父がきつと乗ったであろうトラクターを運転し、二十八期生の皆とにぎやかに実習したこと、酪大のアットホームな雰囲気の中での講義など、ずっと心に残ると思う。

二年生の春、研修生となつてからの八か月間は「皆それぞれ力を蓄えてきたぞ」と言わ



た。これからもずっと交流を続けていきたいと思う。他の学校では出来ない経験や生きた勉強も、酪大にいたから学べたんだと思う。

これからもずっと酪農にたずさわっていくのだから、酪大での二年間は私の心の中で残っていき続ける事だろう。ある時は、アルバムを見開き思いにふける。そして、「自分たちの後継者を酪大に送れたら」と思ってしまうのだから、いかに酪大が素晴らしい所であるか判るといふもの。

業界不振と言うけれど、父が学び、私たち兄妹が学びふれたMF一六五のトラクターが、私達の子の代まで息づいているようにと願っている。

怒られた先生(ぎょうさん)、泣かされた先生(トホホ)、ほめられた先生(一回?)、その他沢山のお世話になった先生方、ホルにジャージー子よ、心に残る思い出を有り難う。

酪農大学校に入学して既に十か月が過ぎようとしています。

私は、酪農家の長男として生まれ、幼い頃から牛と背中合わせで生きてきました。日々の作業の中から、毎日乳を出してくれる牛に愛着を感じるようになり、将来は酪農家として生きて行こうと思ひ、酪大に入学しました。

入学してからは毎日が実習の連続で、「学校をやめたい」と言う声をたびたび聞くほどでした。しかし、実習に馴れて来るほどに、「酪大は、実践的な教育を通じて、酪農後継者を養成する、素晴らしい学校だ」と思っています。

蒜山は、牛にとってはとても環境の良い所ですが、冬は寒さの厳しい所です。

私も、寒さに負けず実習に、講義に頑張っています。



卒業生の皆様には、増々御清祥のこととお喜び申し上げます。

本年度第一牧場では、河原場長が教務課長となり、江田技師が畜産課へ転出し、草刈場長が勝英振興局から、出石技師が津山家畜保健衛生所から転入し、卒業生の方々にはお馴染みの樋口助手との三人で元気に、毎日の管理や実習に励んでおります。

さて、今年の冷夏長雨はここ蒜山方でも影響がでております。トウモロコシのバンカーサイロも、例年から二基とも満杯のところ、今年は若干



の余裕がでています。

おかげさまで、生産乳量、乳脂率等については、順調に伸びており、一万キログラムの牛も徐々に増えてきております。

新築の乳肉複合経営実証モデル牛舎も、周囲には花々を植え、環境を整備し、牛舎内では、乾乳、分娩、育成が一貫して実施でき、学生にとっては、乳肉複合の管理技術が併せて修得できるようになっております。

また、受精卵移植用の黒毛和種(採卵用)二頭も近々分娩予定で、初産分娩後、採卵

の実習等に供することとなっています。また、日頃は乳用種にばかり接っている学生も、和牛のひき運動や牛体のブラッシング等、品種による牛の違いも体験しています。

肥育牛については、全て校内産の雄子牛、雑種子牛を素牛として利用し、乳肉の複合経営、乳用種肥育経営の実習教材となっております。今後は、ジャージー種の肥育技術確立へ向って努力したいとも思っております。

稲ワラは、夏の悪天候はありましたが、例年のとおり、倉吉市や江府町方面へ、学生も職員も全員で出かけ、確保しております。

学園関係者の皆様、卒業生の皆様、緑の草地、赤い屋根の牛舎、積み上げられたロールサイレージ、そしてゆっくと反芻する放された牛の見える蒜山へ、どうぞお出ください。平成七年には酪大創立三十周年を迎えます。

在校生、職員一同、心からお待ちしております。

### 飼 養 頭 数

平成5年11月1日現在

区 分	頭 数
経 産 牛	38
未 経 産 牛	4
育 成 行 使	17
乳 用 牛 計	59
肥 育 牛	65
繁 殖 和 牛	2
肉 用 牛 計	67
合 計	126



トウモロコシ刈取風景



## 第2牧場 だより

牛舎が成牛舎側に移転しても子牛の放牧が可能となるように配慮されています。

倉庫はパーラーの裏へ、車庫は学生控室の跡地へ、そして公舎は事務所西側の空き地へ一棟二世帯の立派な姿で新築され、二家族が生活を始めました。また、トイレが油庫の跡地へ建てられました。パーラーは現在の建物をいかし改築しています。屋根の上には新しくシンボルタワーが建ち、その姿は遠くからでもはっきりと見ることが出来ます。タワーには時計と鐘が取り付けられており、一日に数回美しい鐘の音色で時を告げるようになっていきます。内部は今まで馴れ親しんできたロータリーパーラーから、オートタンDEM(四頭ダブル)パーラーに替わりました。最初は乳を降ろさない牛、足をあげる牛など、どうなることかと思いましたが意外に早く慣れ、その後は順調に経過しております。

春が一步一步近づいておりますが、卒業生の皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。本年度第二牧場では牧野技師が真庭地方振興局へ転勤になり、かわりに新規採用で有安技師が配属となりました。また内部異動により名越経営部長(前場長)、山田場長となりました。

今年には蒜山地域も全国的な異常気象の波にのまれ、春から夏にかけて長雨と日照不足に悩まされました。一・二番牧草の収穫の遅れ、トウモロコシ・ソルゴーの発育障害など粗飼料生産に大きな支障をきたしました。そこで、急ぎよ畑地へのイタリアンの播種、野乾草の調整など冬期間の飼料確保に取り組み、十分とは言えないまでも予想以上の冬の飼料を確保することができました。

生乳生産については、異常気象にもかかわらず例年以上に順調に推移しております。なかでも初産牛の能力が向上してきており、これまでの改良の成果と想っています。昨年の学園便りでも報告しましたが、いよいよ牧場のパーラーの改築、道路の拡幅工事に伴う倉庫、車庫、職員公舎などの取り壊し・移転が行われました。

新しい道路には地下に牛道が設けられており、将来育成牛舎が成牛舎側に移転しても子牛の放牧が可能となるように配慮されています。

## 第2牧場ミルクキングパーラーが完成

年間百五十万人の観光客が訪れる蒜山高原の酪農大学校第二牧場内に、平成五年十二月、北歐風の赤色三角屋根にカリオン、時計を備えたしゃれたミルクキングパーラー(自動搾乳施設)が完成しました。

この施設は、搾乳時間を大幅に短縮し、ゆとりある酪農経営を目指すモデル施設として、国、県の助成により設置し、併せて外観も整備したものです。

時間のロスがなく効率的な搾乳が可能(①牛の首輪にデータキャリア(個体識別表)が取り付けてあり、コンピュータを通じ搾乳時に問題牛が適確に見えてくる②フィードステーション(自動給餌施設)により濃厚飼料の自動給与が可能になるなど省力的な搾乳が可能となっています。



オートタンDEMパーラー

オートタンDEMパーラー